

2024年4月5日 17時発表・即情報公開可

報道関係 文化・音楽ご担当者  
音楽ジャーナリスト／関係者 各位

### 音楽監督ジョナサン・ノット 2026年3月にて任期を満了

公益財団法人東京交響楽団（本部：東京都新宿区 理事長：岡崎哲也）は、音楽監督ジョナサン・ノットとの音楽の旅のコラボレーションの12シーズン目が終わるにあたり、楽団の歴史における次の章へ移行する準備を行い、新しい音楽監督を迎え新たな挑戦を行うことといたしました。

東京交響楽団楽員一同と事務局は、音楽監督ジョナサン・ノットを敬愛しており、この10年以上の間その音楽創りを大きな喜びをもって共有し、その想いは現在も変わりありません。

音楽監督ジョナサン・ノットのコメント「私は素晴らしい楽員たちと共に、最高にエキサイティングな音楽作りを、東京の素晴らしい聴衆の皆様披露することを約束しました。最近、批評家と聴衆の皆様の両方から最高の賛辞を頂いたことは大変光栄なことです。この最後の2年間を共に過ごすことをとても楽しみにしており、東京交響楽団が次の音楽の旅で引き続き大きな成功を収めることを願っています。」

ジョナサン・ノットは、2011年10月、第593回定期演奏会で《ラヴェル：ダフニスとクロエ（全曲）》等で初めて東京交響楽団を指揮。この1回の共演が決定的となり、2014年度シーズンから第3代音楽監督に就任しました。飛躍的な演奏水準の向上、ウィーン楽友協会を含むヨーロッパツアーの成功、コロナ禍における映像指揮プロジェクトへの試み、モーツァルトのダ・ポンテ三部作とR.シュトラウスの演奏会形式オペラ等、その意欲的かつチャレンジングな取り組みは大きな注目を集めました。

録音もオクタヴィアレコードからマーラー、ブルックナー、ショスタコーヴィチ、ベートーヴェン、R.シュトラウス、チャイコフスキー等15作品をリリース。2019年には第31回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「優秀録音作品賞」と2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」受賞、2024年1月には音楽の友誌「コンサート・ベストテン2023」で楽団史上初の第1位へと導きました。

ノット氏の数々の功績を称え、深い敬意の念を示すとともに、これからの2年間の1公演ずつを大切にしながら、新たな章へと歩みを進めて参りたいと考えております。引き続き皆様にはご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

【本件に関するお問合せ】 公益財団法人東京交響楽団広報本部 TEL: 044-520-1518

高瀬 [takase@tokyosymphony.com](mailto:takase@tokyosymphony.com) 伊藤 [ito@tokyosymphony.com](mailto:ito@tokyosymphony.com)